



新・文化庁に エール

若林佛具製作所
若林相談役に聞く
「京都で輝く“新・文化庁”」

創業191年を誇る(株)若林佛具製作所は、本社リニューアルに合わせて「京仏壇ミュージアム」を開設し、京都の匠の技を発信されています。今回は同社の若林卯兵衛取締役相談役に、京都産業と文化のかかわりや伝統工芸を取り巻く課題などをお伺いしました。

若林相談役は京都商工会議所の監事で、これまで副会頭や工芸産業振興特別委員長などを歴任されているほか、文化庁への支援のあり方検討会では座長として中間報告をとりまとめられ、文化庁移転に向けた支援に尽力いただいています。

【文化庁 地域文化創生本部】TEL:075-330-6720(代表) 東山区東大路通松原上ル三丁目毘沙門町43-3

京都で培われてきた
伝統や文化は企業に
どのような刺激を
与えていますか

京都市の伝統産業74品目は、今でこそ「伝統」という文字がつけられています。平安京の時代から様々な職の素晴らしい技術によって作られたものが工芸品と呼ばれ、各地にその技術が伝わり日本の主要産業として成長してきました。京都人のDNAには鑑識眼が育まれていて、俗にいう下らないものと価値あるものとを識別して、いろいろな文化に触れることで、京都の企業経営者に単に金儲けだけではない、奥ゆかしさや余裕を与えています。京都で成長してきた大企業がなぜ東京に本社を移さないかの答えは、利益追求の企業経営だけではない、すぐには言葉にはしにくい有形無形の文化が京都にあるからだと思っています。

また、伝統産業の後継者育成の最大の解決策は、まず業界が潤うことです。どの業種にせよ、作った作品

が売れて技術者の生活が安定するとわかれば、後継者は自ずと増え、育っていくのではないのでしょうか。

京仏壇ミュージアムを開設され、 伝統産業の情報発信を されていますね

仏具の歴史は6世紀の仏教伝来とともに始まり、京都では8世紀ころから現在に至るまで、常に仏壇・仏具製作の中心地として研鑽を重ねてきました。脈々と受け継がれてきた京仏壇・京仏具は木工・金工・漆工などのあらゆる技術を駆使して造り上げる総合工芸であり、匠の素晴らしい技と魂をこのミュージアムに

集結させました。

日本人の生活環境や宗教観の変化にあわせて、和室や仏間などが激減し、建築様式も様変わりしました。代々伝わってきた立派な仏壇はこれまでその家のステータスでもあったのですが、今ではリビングに置かれる家具調の小さな仏壇に代わってきました。ご先祖が精魂込めて残してくれた仏壇から技術を学んでほしい、また京都にはこのような技術がまだまだ保存継承されているということを知っていただきたいの思いからミュージアムの開設に至りました。

新・文化庁へ期待することを お聞かせください

これまで地域文化創生本部の職員の間は、浴衣を着て祇園祭に参加されたり、お茶やお華のお稽古を体験されるなど、いろいろな方法で京都に溶け込もうとしておられると聞いていますが、これから京都にお越しになる文化庁の職員の方には



文化庁 地域文化創生本部 安井事務局長

是非、ご家族も一緒に京都ファンになっていただきたいと思います。京都人のDNAには他所から来られた方を先ず様子見してしまう習性があるのではないかと思っています。いずれは人事異動で京都を離れてしまうからと言って、表面だけのお付き合いで済ませようとしてしまうと、京都人は一歩引いて見てしまいます。腹を割って本当の京都、京都人を理解していただければ嬉しいです。京都観光・文化検定試験(京都検定)のテキストや問題集などは、京都のことを知る入門書として最適です。で、文化庁の職員さんにも手に取って欲しいですね。

ようこそ!わが社のミュージアムへ

明治から昭和にかけての仏壇・仏具を中心に職人の卓越した技術を感じていただくことができます。世界遺産「中尊寺 金色堂」の内陣を参考に製作した金仏壇をはじめ、宗派別の仏壇の違いや仏壇・仏具の製造工程などを間近でご覧ください。

開館時間 9:00~18:00 休館日 年末年始 料金 無料(要予約)

京仏壇ミュージアム

京都市下京区七条通新町東入 若林佛具製作所京都本社5階
TEL:075-371-3131 <https://www.wakabayashi.co.jp/>

